キャンピングカーで行く浪漫の日本紀行応援マガジン

日本RV協会発行 JRVA

# くるま旅

Kuruma Tabi

Vol.004
2008
FREE MAGAZINE

キャンピングカーで楽しむスロートラベル

## はじめよう スローなくるま旅

スローなくるま旅をするための

## スロートラベル虎の巻

今日から使える! ためになる!

## お役立ちアイデア集

キャンピングカーで楽しむスロートラベル

# はじめよう スローなくるま旅

「スローライフ」、「スローフード」などという言葉とともに、今「スロートラベル」という言葉に好感を持つ人が増えています。

「ゆったりした旅」。
直訳すると、そういう意味なのですが、そのような考え方が広まってきた背景には、ロハス（LOHAS）と呼ばれるライフスタイルが定着してきたことが関係しています。
ロハスとは、人類と地球の共存をテーマに、地球資源を浪費する生活構造から脱却して、持続可能なライフスタイルを追求しようという思想です。3年ほど前から欧米を中心に広がり始め、今は日本でも広く定着するようになりました。

「スローフード」、「スローライフ」などという言葉も、そのロハスと同じ考え方から出ています。
「スローフード」が、効率よく生産されて全国展開しているファーストフードに対し、個々の土地や風土に根づいた伝統的食物や食材に注目しようというムーブメントを意味したように、「スロートラベル」も、旅行先の人々や文化と交流するというニュアンスを持っています。

つまり、スロートラベルは、旅人が自分の旅のテーマを探し、それと出会う旅といえましょう。
だから、欧米では「スロートラベルは自己実現の旅」ともいわれています。

テーマを発見してそれと出会う旅は、やはり、気に入った場所を見つけてゆったり滞在することから始まります。
地元の人々と、のんびりと会話を交わす。
地の食材を使った、地の料理や酒を味わう。
その土地を育んだ文化や歴史に触れる。
観光地として知られていない、その土地だけの素敵な景色を探し出す。

観光地から観光地へと効率よく移動して、短時間のうちにたくさんのものを見物するという、従来の観光旅行のパターンから脱却することが求められるわけですね。

そういう旅を実現するのにいちばん適した移動手段は何でしょう?
徒歩
自転車
カヌーやカヤック…

もちろん、スロートラベルにふさわしいのは、そういうエコロジカルな移動手段かもしれません。
でも、それをすべて可能にするのはキャンピングカーです。
気に入ったキャンプ場などを見つけ、そこを拠点として、それこそ徒歩でも自転車でも、カヤックでも。

キャンピングカーでは、スロートラベルを実現するための二次交通手段を車載することもできますし、それ自体が、長期滞在を快適にこなす装備を満載した前線基地でもあります。
まさに、キャンピングカーこそ、スロートラベルの“代名詞”ともいえる存在かもしれません。

地球環境を守るために、ドライブにおいても「無理」と「無駄」をなくしていこうという動きが強まっています。
キャンピングカーは、すべての自動車の中で、唯一走るときよりは停まっているときに真価を発揮する自動車です。

また、キャンピングカーの多くは、外壁と内壁の間に断熱材が封入され、車外の温度変化に左右されにくい室内環境を維持できるようになっています。つまり冷暖房効果を得るために、無駄なエネルギーを浪費しない構造になっているのです。

キャンピングカーは、地球に優しさを発揮することによって、初めてそのオーナーにとっても快適な時間を約束するところに本質があります。

21世紀のスロートラベルに最適な移動手段として、今、キャンピングカーに対する世界の注目は高まっています。

そのことに、日本の多くのキャンピングカーユーザーはすでに気づいています。
「キャンピングカー白書2007」では、ユーザーが将来実現してみたい夢を尋ねる項目があります。
そのなかで一番多かった答は、
「気に入った場所でのんびり滞在すること」。
なんと、その回答率は63.4%で、2位の「自分で改造を楽しむ」（23.1%）を大きく引き離しています。ちなみに、よく話題になる「日本全国を一周する」という答は9.1%。
実際に、キャンピングカーを使っている人たちは、スロートラベルの楽しさを直感的に感じとっているようです。

始めましょう!　キャンピングカーライフ。
地球へのいたわりと、自己実現の旅を両立させるためにも。

# スロートラベル 虎の巻

免許皆伝

スロートラベルを極めて
あなたのくるま旅を
もっと有意義で
楽しいものにしませんか?

## その一　不便を楽しむべし

キャンピングカーは「動く家」。
家庭と同じように、電気、ガス、水道設備が整った移動するマイホーム。
そんな夢を抱いてらっしゃる方が多いのではありませんか。

しかし、少し違います!
確かに、キャンピングカーの中にはキッチンがあったり、シャワー設備があったり、テレビがあったり、エアコンやヒーターが備わったものが多くありますが、はっきり言って、家庭と同じようには使えません。
「水道」があるといっても、クルマに積めるのは10リットルか20リットルタンク。多くても100〜150リットル。100リットルあったにせよ、4人でシャワーを使えば1回で終わるぐらいの量でしかありません。

電気が使えるといっても、家庭と同じようにテレビを見たり、パソコンを使ったりするためには、キャンプ場でAC電源に接続するか、もしくはサブバッテリーの力を借りて、インバーターを駆動させなければなりません。あるいは、人に迷惑をかけないように、発電機を回すか…。
いずれにせよ、家と同じように電気を使うためには、ものすごい智恵と労力を必要とします。

ガスもしかり。ボンベに入ったLPガスを使うにせよ、カセットガスを使うにせよ、一定量を使った後は、必ず充填や補充の面倒がつきまといます。
トイレも自由に使えますが、そのタンクに汚物が溜まったときは、それをオーナーが処理しなければなりません。

キャンピングカーには「不便がいっぱい!」
それが実状です。

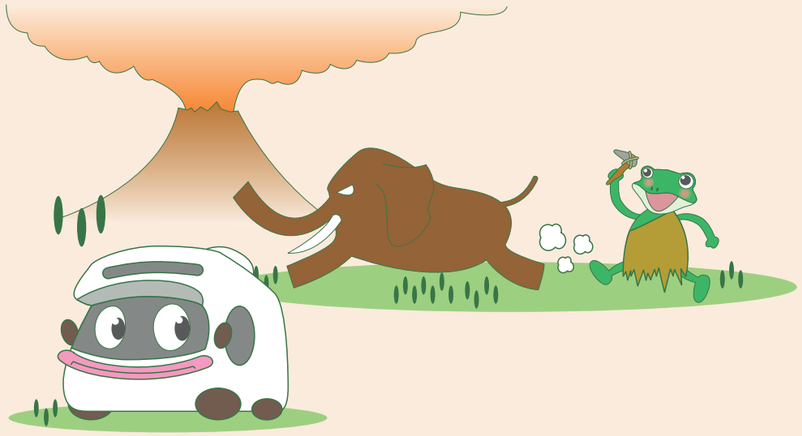
しかし、だからこそ面白い!
そうであって、初めて楽しい!
キャンピングカーの世界はそういう世界なのです。

つまり、都市文明に慣れてしまった人たちに、「生活の原点」を教えてくれるもの。それがキャンピングカーです。
使う電気にも限りがある。
ガスにも限りがある。
水にも限りがある。
残り少なくなってきたら、どこかで、それを補わなければならない。
はて?　どうする?

そんなことを考える生活を家庭の中で体験することなんて、絶対ありません。
でも、そういう体験を、「非日常」と呼ぶのではないでしょうか?

旅が便利になったら、それは「日常の延長」でしかありません。日常の延長を「旅」とするには、少し淋しいものがあります。
「非日常の旅」
それを与えてくれるのがキャンピングカー。

人生、何がいちばん面白いかと言えば、自分の生活を、自分の創意工夫でクリエイトすることではありませんか?
キャンピングカーはそれを可能にしてくれます。
そして、電気、ガス、水などの「資源の重要性」に対して鋭敏になる心を育ててくれます。
キャンピングカーで目覚めた朝は、前の晩とは違った自分を発見します。



## その二　家族の絆を大事にするべし

キャンピングカーは、基本的に狭いものです。
椅子やテーブル、キッチンとベッドが備わった車種があるといっても、基本的に、みなすべて見渡せる範囲にちんまりと収まっています。
家庭のようにリビング、子供部屋、お父さんの書斎などというふうに個室ごとに仕切られた空間は、限られたキャンピングカーの中で望むべくもありません。

だからいいのです!
つまり、広すぎて家族が拡散する方向に進んでいる「家」とは逆に、キャンピングカーは狭いがゆえに、家族の求心力を高めることができます。
家族の求心力が高まった空間を、仮に「団らん」という言葉で表現してみると、キャンピングカーには「団らん」があります。

いま日本の家庭から「団らん」が失われたという声はあちらこちらから聞こえてきます。
その理由はいくつか考えられますが、まず1980年代以降、各家庭に子供用の個室が定着し、食事以外の時間帯には子供たちが親の前から姿を消すようになりました。

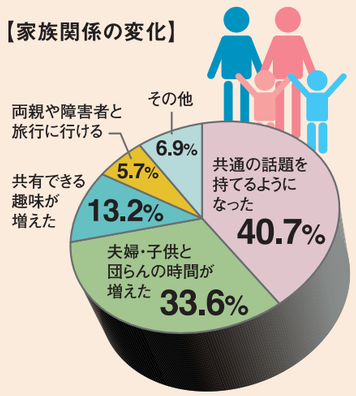
また、テレビが各個室に1個という率で普及し、「親子で同じ番組を楽しむ」という日常的な光景も家庭から消えていきました。

さらに、子供同士の連絡に欠かせなかった家庭用の固定電話が携帯電話の普及によって役目を終え、固定電話を使って子供たちが連絡を取り合う姿を、親がチェックする機会もなくなりました。

では、食事の時間だけは、親子の絆が保たれているのか。
…というと、これも父親の残業、母親のパート、子供の塾通いなどで、各家庭から家族が一緒に食事する時間が消えていきました。
つまり、1970年代ぐらいまではかろうじて保たれていた家族の団らんが、今ではほとんど壊滅状態になっています。

キャンピングカーの狭い(?)ダイネットは、実は、この日本人から失われた「団らん」を回復する場として、家庭のダイネットに取って代わろうとしています。
なにしろ、親子はクルマの中では、否が応でも向き合う時間が確保されます。
そうなれば、互いに会話を交わすようになるし、会話があれば情報交換が生まれ、お互いにいま何を求めあっているかを知り合うようになるでしょう。
『キャンピングカー白書2007』によると、購入した人の33.6%が、「夫婦・子供と団らんの時間が増えた」ことを認めています。
さらに、40.7%の人が、「家族で共通の話題を持てるようになった」と感じています。
その二つを合わせて、74.3%の人が、「キャンピングカーによって家族の絆が深まった」ことを実感しています。

【家族関係の変化】



## その三　マナーを守って地元の人と触れ合うべし

スロートラベルは、地元の人々やその地域の文化との交流から生まれます。
しかし、それは快適なことばかりとは限りません。
通りすがりの観光客ならば、お金を落としてくれるかぎり、地元の人たちはニコニコ顔で歓迎してくれます。

しかし、長期滞在となると、地元のルールを守れないヨソ者は、なかなか歓迎されないのが実状です。
早い話、その地域に合ったゴミの分別を守れない人。
宿泊が認められないような場所での、キャンピングカーの長期滞在。
その地域の人々が大切にしている郷土の文化などを粗略に扱ったりしても、暮らしている人たちの気分を害することがあります。

でも、それがうまく行ったときはまったく逆の成果が得られます。
人間は、遠くから来たヨソの人間を「マレビト」として歓迎したい動物なのです。
自分たちの文化やルールを知らない旅行者がやってきて、その旅人が、自分たちの文化やルールを理解し、楽しんでくれたら、住んでいる人間にとってどれだけうれしいことか!
そうやって人類は、アフリカの地からスタートし、何万年もかけて南アメリカまで旅を続けることができました。
その間には、きっと知らない人々同士の温かい交流がたくさんあったことでしょう。

スロートラベルは、異なる文化やルールを理解しようという気持ちから生まれます。

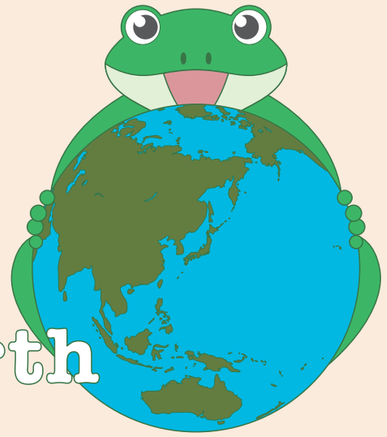
## その四　ゴミを出さないよう心がけるべし

ゴミを出さないように心掛ける。
それはキャンピングカー旅行に限ったことではありません。
ゴミ処理に関わる膨大なコスト。それを焼却するために発生する$CO_2$。
さらに、最終的にはゴミとなってしまう資源そのものの無駄づかい。

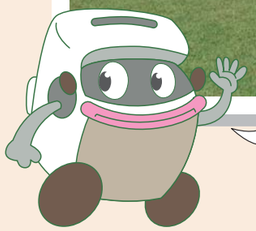
ゴミを出さないように心掛けるということは、今や地球環境保全のテーマと密接に結びついています。

スーパーなどで食材容器として使われるプラスチックトレー。コンビニで配布されるレジ袋。
それらも元は石油資源です。
石油の生産量がピークに達するのは、早くて2015年。遅くても2035年といわれています。
オイルピークがはっきり分かるようになって、いま世界各国の政府は、国を挙げて、様々な取り組みを開始しました。

ゴミを出さない心がけは、限りある化石燃料を少しでも延命させることにもつながります。
マナーを守って、ゴミを持ち帰る。
それはとりもなおさず、ゴミの量を減らすことにもつながるでしょう。
キャンピングカーユーザーが、まずその姿勢を訴えることは、とても大事なことのように思えます。




## その五　キャンプ場を大切にするべし




スロートラベルの基地として、キャンプ場の果たす役割はこれからますます重要になってきます。
なにしろ、スロートラベルとして期待されている2大要素、
「ゆったり過ごせる」
「自然と接する」
という二つの条件を兼ね備えている宿泊施設として、キャンプ場はもっとも理想的な場所といえるでしょう。

今まではツーリング志向のキャンピングカーユーザーたちからは評判の良くなかった「アクセスの不便さ」というものが、これからは、逆にキャンプ場の武器となる日が来るはず。
アクセスが不便ということは、言い方を変えれば、「手つかずの自然が残っている」ということですからね。

幹線道路を走る自動車旅行では、どこの地域を走っても同じ看板を掲げるコンビニチェーンで飲み物を調達し、似通った造りの温泉センターで入浴するというステレオタイプ化された楽しみ方しかできません。
増え続ける道の駅でも、地域ごとの特色を生かすといいながら、建物の構造や利用者へのサービススタイルなどは、どこもほとんど変わりません。
それは利用者にとって、日本中どこに行っても同じ「風景」のなかを旅することに他なりません。

今はまだ、旅の便利さが優先される時代ですから、風景や環境の変化を楽しむという精神的な満足を得ることよりも、ロードサイドのインフラが整備されていくことの方が、旅行者にとってはありがたいことでしょう。
しかし、やがて、その結果として立ち現れてくる風景の画一化こそが、「退屈の原因」だと気づく人が増えてくることも間違いありません。

このときに、人工の香りが少ない「あるがままの自然」を売り物にできる施設が魅力を放ってきます。
そして、観光地のにぎわいをさんざん経験した旅行者たちは、「静けさ」が、お金を払うほど贅沢なものであることを、やがて理解するようになるでしょう。
スロートラベルという言葉が、心理的に「時間が止まったような旅」を楽しむものだとしたら、その核となるものは「自然」と「静けさ」。

そういうキャンプ場のメリットを、いちばん享受できる最短距離にいる乗り物は何でしょう?
答はキャンピングカーですね。

キャンプ場には、連泊割り引きや、シニア料金サービスを設定しているキャンプ場がたくさんあります。
また、「オートキャンプ白書 2007」によると、ペット連れで楽しめるキャンプ場の割合は62.7%。これは、ペット同伴で旅行しているユーザーが4割近くいるキャンピングカーオーナーにとってもうれしい話。
キャンピングカーとキャンプ場の本当の蜜月が始まるのは、そんなに遠い話ではないように思えます。

COLUMN
KURUMATABI

## スロートラベルは国家的なプロジェクト

スロートラベルは、まさに国家的なプロジェクトになりつつあるようです。それは、いま顕著になりつつある「各地方自治体の財政的破綻」を解消する妙薬となるからです。

今、構造改革の影の側面として、都市部と地方の地域格差がますます明瞭になってきことが指摘されるようになってきました。少子化による人口減少や補助金カットによる財政的困窮がこのまま進むと、2030年には、ごく一部の地方を除き、ほとんどの地域経済は縮小することが予測されています。

それを食い止める戦略こそ、各地域の観光政策の振興による交流人口の拡大だというわけです。

このような「観光立国」という戦略を進めるにあたって大いに期待できるのが、自動車旅行です。

日本観光協会と交通公社の調査では、ともに2006年度のマイカーとレンタカーを合わせた自動車旅行の普及率は50%を超える数値を示し、現在では6割に達しています。

自動車旅行は、飛行機や列車のように「点から点へ」移動するものとは異なり、常に「線」を描いて遂行されます。

それによって、自動車が走る地域のレストラン、ガソリンスタンド、土産物屋、ホテル・旅館などが切れ目なく経済効果の恩恵に浴することができます。

そのような自動車旅行を推進していくためには、乗り越えなければならないハードルがいくつかあります。

代表的なハードルは、日本人の休暇に対する意識の遅れ。

ビジネスマンの有給休暇の消化率は、あいかわらず50%台を低迷し、旅行形態も「日帰り」が前提となっています。

日帰り旅行が中心となるかぎり、移動日が休日内に集中するために、交通渋滞が緩和される見通しも立ちませんし、観光地の宿泊施設の稼働率も伸びません。

それを解消する戦略こそ「旅行者の滞在期間の延長」です。つまりスロートラベルの勧めです。

現在の日本人の平均宿泊日数は2.77日。これを4日にまで延ばすことで、国内観光消費額を30兆円まで引き上げることができるそうです。

そのためには、まず各地域がドライバーに滞在したいと思わせるような楽しいプログラムをつくることが大事であり、昼の観光のみならず、夜の過ごし方も含めた魅力的な提案をできるようにしなければならないといわれています。

……これは、07年11月に幕張メッセ国際会議場で開かれた「自動車旅行推進機構」のシンポジウムで得られた結論です。

スロートラベルが、国民的課題になってきた感じがヒシヒシと伝わってきますね。キャンピングカーの出番です。

## ゴミを出さないことは環境保全にもつながる

文明生活が進むにしたがって
大量に排出されるゴミ問題が、今、
どの先進国でも大きな問題になっています。
ゴミ問題を解決することは、
マナー意識の向上につながるだけでなく、
地球環境の保全という役割も背負っています。
難しいことはひとつもありません。
ここでは、キャンピングカーユーザーが簡単に行える
「ゴミを少なくするコツ」をご披露いたしましょう。

今日から使える! ためになる!

# スロートラベル応援 お役立ちアイデア集

# 食事・ゴミ処理 編

**人が生きていくうえで欠かせない食事。
買物をしても、料理をしても、何かすれば出てくるゴミ。
料理は手際よく、ゴミはなるべく出さないようにするのもスロートラベルの楽しさのひとつ。
キャンピングカーという限られたスペースで快適に過ごすためのアイデアです。**

## キャンプの食材は家を出る前に加工する

食材などの生ゴミを出さない一番良い方法は、家を出る前にあらかじめ食材を使う量だけ加工してしまうことです。

たとえばバーベキューなどに使う野菜は、切り刻んで串に刺せばいいような状態にしておく。

同じように、魚などを調理するときも、家を出る前にはらわたを取ったり、ウロコを取ったりして、すぐ調理できる状態にしておく。

食材を洗うときも家の中で洗ってしまえば、現地に着いて大量の水を使うこともありません。

家の中で、事前に食材を下ごしらえしておけば、食べる量も正確に計れます。たとえば、カレーの材料に使うニンジン、タマネギ、ジャガイモなども、素材のまま持っていくとなると、ついつい大目に用意しがちですが、家で切ってみると、人数分の正確な量が計算しやすくなります。

短期間のキャンプが目的の場合は、このように事前に食材を加工する方法がとても有効ですが、長距離旅行ともなると事前の準備も難しくなります。時にはレストラン、食堂を有効に使うこともお勧めします。

## 紙皿、紙コップの使用をひかえる

リユースできる食器類を使うことは、ゴミを減らす意味でとても大事なことです。

たとえば、使い捨ての割り箸を持参するのをやめて、木やプラスチックの「マイ箸」を使う。

食器類も、紙皿や紙コップの使用をひかえ、キャンプ用品として普及しているアルミ皿やプラスチック皿を使う。

カップ麺などを食べるときも、あらかじめ容器から中味だけを取り出して、別の容器に移し変え、お湯を注ぐときはマイカップを利用する。

こうするだけでも、かなりのゴミを減らすことができます。

旅の途中では、スーパーなどで食材を調達することもあります。

そのときに、後でゴミとなりやすいのが、食材を入れた発泡スチロール系のトレイ。

最近のスーパーなどでは、このトレイなどを回収するボックスを設置している店も増えました。

係の人によく説明を聞き、トレイを洗ってから、このようなトレイ回収ボックスに捨てさせてもらうことも検討していいでしょう。

## 汁ものの処理にはペット用排泄シートを利用

生ゴミを出さない究極の方法は、ぜんぶ食べてしまうことです。

しかし、そうは言っても、食べきれないものはどうしても出てしまいます。

そこで、キャンプ料理は味付けも大事。

油っこい味は、最初のうちは食欲が進みますが、お腹がいっぱいになってくると、胃が受け付けなくなりがち。だから、少しあっさり目の味付けをするのがコツ。

カップ麺なども、油分の多いこってり味のものは、最後までツユが飲めなくなることがあります。これもあっさり味のものを選ぶのがベター。

どうしてもツユが残ってしまう場合は、ペット用の排泄シートに染み込ませるという方法もあります。

また、大きめの空のペットボトルを用意して、飲みきれなかったツユをそこに入れて持ち帰ることも、時には必要です。

油分を含んだツユをキャンピングカーのシンクに落としてしまうことは避けましょう。配管が細いものが多いので、つまる原因になります。

さらに、食べ残しのツユを車外に捨てるようなことは、マナー上絶対に行ってはならないことです。

## ゴミ処理するためにもキャンプ場を有効に使う

どんなにゴミを少なくする方法を編み出しても、旅行中のゴミはやっぱり溜まってしまいます。

旅行中のゴミを処理する意味においても、キャンプ場はありがたい存在です。

キャンプ場のなかには、「ゴミ持ち帰り」を推奨しているところもありますが、施設の整った大きなキャンプ場の場合は、たいていキャンプ中に出たゴミならば無料か少額の処理料を払うだけで処理してくれます。

その場合、たいてい分別処理になりますが、地域によってもまたキャンプ場の運営方針によっても分別の区分けが異なる場合があります。

空き缶などを捨てる場合も、場所によってはスチール缶とアルミ缶に分けているところもあります。

また、つぶして捨てることを推奨しているところと、つぶさずに捨てるように指示しているところもあります。くれぐれもそのキャンプ場の指導に従うようにしましょう。

# トイレ 編

今日から使える! ためになる!
スロートラベル応援
お役立ちアイデア集

**便利な装備であるトイレも片付けるのはやっぱり面倒なものです。
でも使い方やちょっとした工夫でもっと快適になります。**

## トイレにティッシュペーパーを流さない

キャンピングカーの便利な装備のひとつにトイレがあります。

しかし、トイレの処理には多少覚えておかなければならないことがあります。

その一つは、絶対に水に溶けない紙は流さないこと。

これはマリントイレにおいても、カセットトイレやポータブルトイレにおいても同様です。

ティッシュペーパーは水に溶けにくいので、詰まりの原因になることがあります。水に溶けやすいトイレットペーパーを使いましょう。

## トイレ処理は他人の迷惑にならないように

トイレの処理はできるだけ自宅か、もしくはキャンプ場の施設を使うよう心掛けましょう。

キャンプ場の中には、輸入車のマリントイレに対応できるダンプステーションを備えているところも結構あります。

また、まだ数は少ないのですが、カセットトイレの専用処理施設を設けているところも出てきています。これはとても便利なものです。

カセットトイレの処理は、そういう場所を利用するのが最も理想的ですが、そういう処理施設がないキャンプ場の場合は、一般客用トイレを使うことになります。

その場合は、なるべく他の人が利用しない深夜や早朝の時間帯に処理を済ませてしまうことをお勧めします。

その理由のひとつは、何日間にも渡ってタンクに汚物が溜まった場合、蓋を開けたときに悪臭が出ることが多いからです。この臭いは消臭剤を使っても消せない場合があります。

また、消臭剤の種類によってはその地域の浄化槽にダメージを与えることもあるので、その消臭剤が地域のトイレ施設と合うかどうかを必ず確認しましょう。

タンクの中味をトイレに流すときも要注意です。

特に和式のトイレなどでは、タンクに溜まりすぎた場合は便器から溢れ出すこともあります。何度か小分けにして、少しずつ水に流すようにしましょう。

## ペットの排泄物もキャンピングカーのトイレに

ペット連れで旅行するときは、ペットの排泄物も悩みのタネになります。

室内犬の場合、オシッコの方は排泄用シートを利用されている方が多いでしょう。

困るのはウンチの場合。

一番良い処理方法は、トイレ付きのキャンピングカーの場合は、ウンチはそのままトイレットペーパーに包んで、キャンピングカーの車内にあるトイレに流してしまうことです。

固形の排泄物でも、移動中に車内が揺れることで自然に流体物になります。これなら誰にも迷惑がかかりません。

トイレの話はともすれば避けて通りがちですが、キャンピングカーのトイレは上手に使うと、とても便利な装備のひとつです。

## 排泄物を凝固剤で固める商品も登場

最近は、排便・排尿などの排泄物を、凝固剤を使って瞬間のうちに固めてしまうというトイレ処理セットなども市販されています。

固まってしまえば、衛生上の問題や臭いの問題もクリアして、「燃えるゴミ」として、そのまま家に持ち帰って処理できるようになっています。

これらの商品を上手に利用すれば、キャンピングカーのトイレ処理の負担を減らすことができるかもしれません。

いろいろなアイデアを組み合わせて、人に迷惑をかけない快適なトイレ処理システムを考案してみてください。



COLUMN
KURUMATABI

# エコドライブの意識が大切な時代

地球温暖化に鋭く警鐘を鳴らしたアル・ゴア氏がノーベル平和賞を取るなど、今の時代は「環境負荷の低減」という視点がなければ何も語れないような雰囲気になってきました。

そのなかで、石油依存のエネルギー構造が、CO2（二酸化炭素）排出量の増大を招くと指摘する声は年々強まっています。

CO2の排出は、自動車だけの問題に限らず、社会的な規模で見る必要があります。

CO2の排出比率は、
発電によるものが34パーセント。
産業によるものが23パーセント。
家庭によるものが19パーセント。
交通によるものが24パーセント。
この「交通」のうち、自動車が排出するものが12パーセントだといいます。

このように、自動車交通を含め、広い分野で「石油に依存する率の低減」が、人類の大きな課題となっていることが浮き彫りにされてきました。

そのため、各自動車メーカーは、よりクリーンで効率的なディーゼルエンジンの開発やディーゼル並みの効率化を達成するガソリンエンジンの開発。さらにそれらのパワーユニットのハイブリッド化を図るなど、パワートレーンの改良と同時に、空力の改善、軽量化の促進など、自動車技術の総合的な見直しに取り組み始めました。

また、食料事情を悪化させない、より効率的なバイオマス燃料の開発も積極的に推進されています。

ただ、バイオに依存できるのは全エネルギーの20～30パーセント程度だろうという見解もあります。

その先で必要となってくる技術は、電気自動車や燃料電池自動車を実用化する技術だといわれています。

それと同時に、代替燃料車が走る世界を構築するためのインフラの整備も検討されことになるでしょう。

このように各自動車メーカーは、鋭意「環境に優しい車両」開発に全力を投入するようになってきましたが、ユーザー側にもそれに協力する余地が残されています。

たとえば、
「アイドリングを5分短くする」
「ふんわりとアクセルをスタートさせる」
「むやみな加速をしない運転を心掛ける」

このようなエコドライブを、地球上のドライバー全員が心掛けることで、とてつもない量の石油燃料の温存と、CO2の排出低減が達成されるといわれます。

楽しさが感じられてこそ、人々は動きます。

エコドライブにも楽しさは存在するし、また将来開発されてくるエコカーにも、新しいドライビングプレジャーは存在するでしょう。

今後は、キャンピングカーにもエコカーの流れがもたらされることになっていくことでしょう。

## 皆様からのご意見・ご感想お待ちしております

今回の「くるま旅VoL.4」はいかがでしたか？　皆様の素敵なくるま旅の参考になれば幸いです。また事務局では皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。「こんな事が知りたい」「こういう特集をやってほしい」などのご要望や、「○○道の駅のこれは美味しい」「私の★★★キャンプ場」「こんな動物と出会った」等々、あなたのくるま旅のエピソードをお寄せください。写真も大歓迎です。十人十色のくるま旅のお話を聞かせて下さい。採用された方には粗品を進呈します。

■ 宛 先　〒194-0022　東京都町田市森野1-10-10　ペアシティエンドウビル2-A
日本RV協会事務局「くるま旅編集部」まで

くるま旅 Kuruma Tabi Vol.4
□ 発 行　日本RV協会（JRVA）
□ 編 集　株式会社自動車週報社
□ 印 刷　図書印刷株式会社
《 無断転載を禁ず 》
2008年2月1日発行　Printed in Japan 2008